

令和元年度 第9回

希望郷いわてモニターアンケート  
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

令和2年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

## I アンケート調査の概要

1 調査課題名  
食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。

3 調査期間  
令和2年2月17日（月）から3月8日（日）まで

4 調査方法  
調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象  
令和元年度希望郷いわてモニター 258名

6 回答者数  
201名

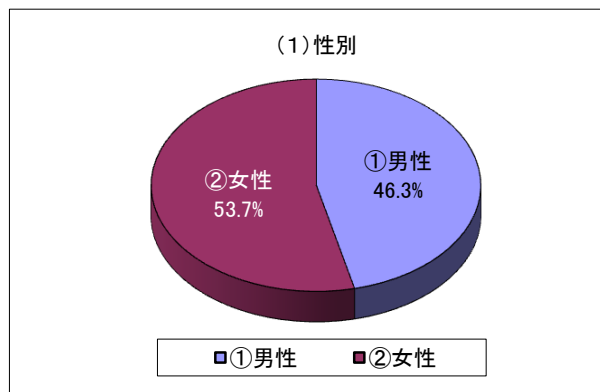
7 回答率  
77.9%

## II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

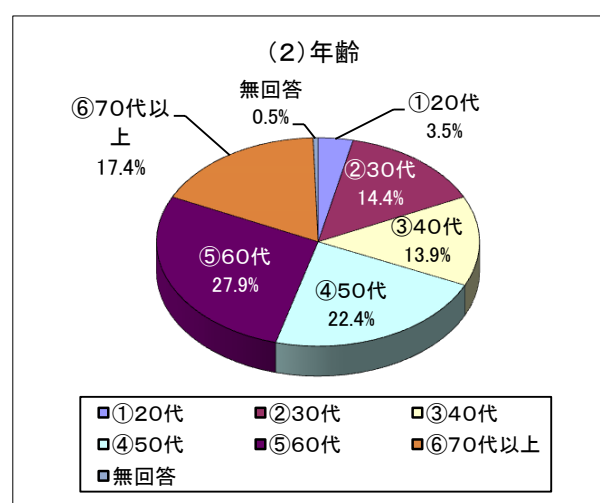
(1)性別

①男性	93
②女性	108
計	201



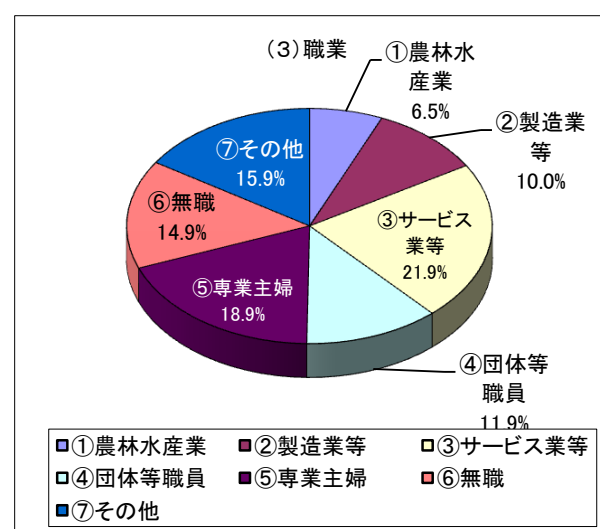
(2)年齢

	合計	男性	女性
①20代	7	3	4
②30代	29	9	20
③40代	28	12	16
④50代	45	17	28
⑤60代	56	33	23
⑥70代以上	35	18	17
無回答	1		
計	201	92	108



(3)職業

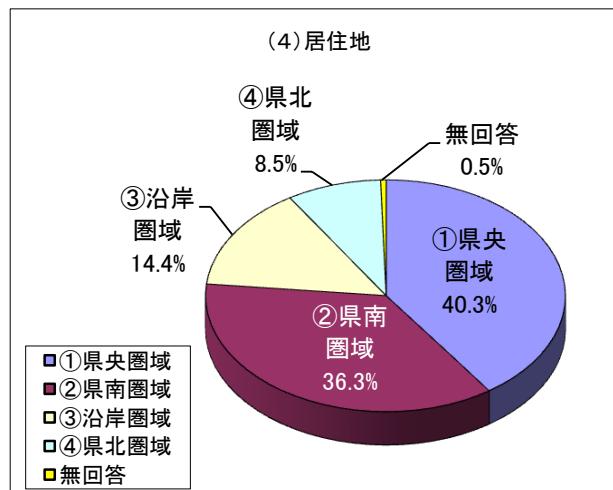
	合計	男性	女性
①農林水産業	13	8	5
②製造業等	20	15	5
③サービス業等	44	21	23
④団体等職員	24	13	11
⑤専業主婦(主夫)	38	2	36
⑥無職	30	22	8
⑦その他	32	12	20
計	201	93	108



※「その他」の内訳: パート、アルバイト、自営業、学生、不動産業、運送業、金融業、観光ガイド、保育補助、警備員、法人評議員、ソフトウェア開発、賄い、家事手伝い 等

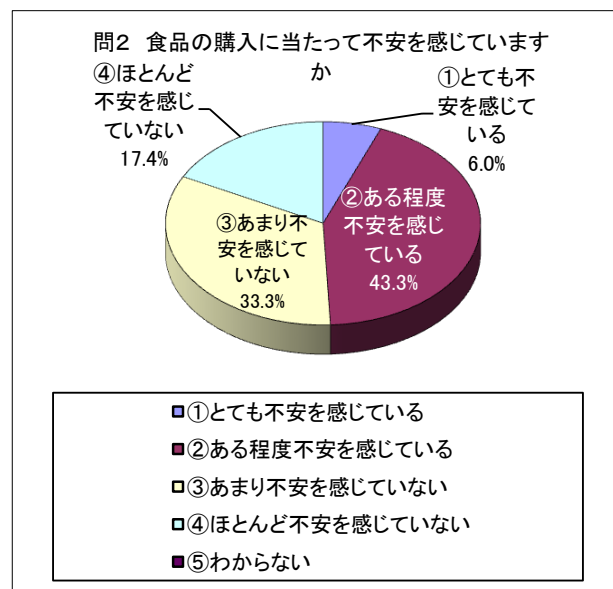
(4)居住地

①県央圏域	81
②県南圏域	73
③沿岸圏域	29
④県北圏域	17
無回答	1
計	201



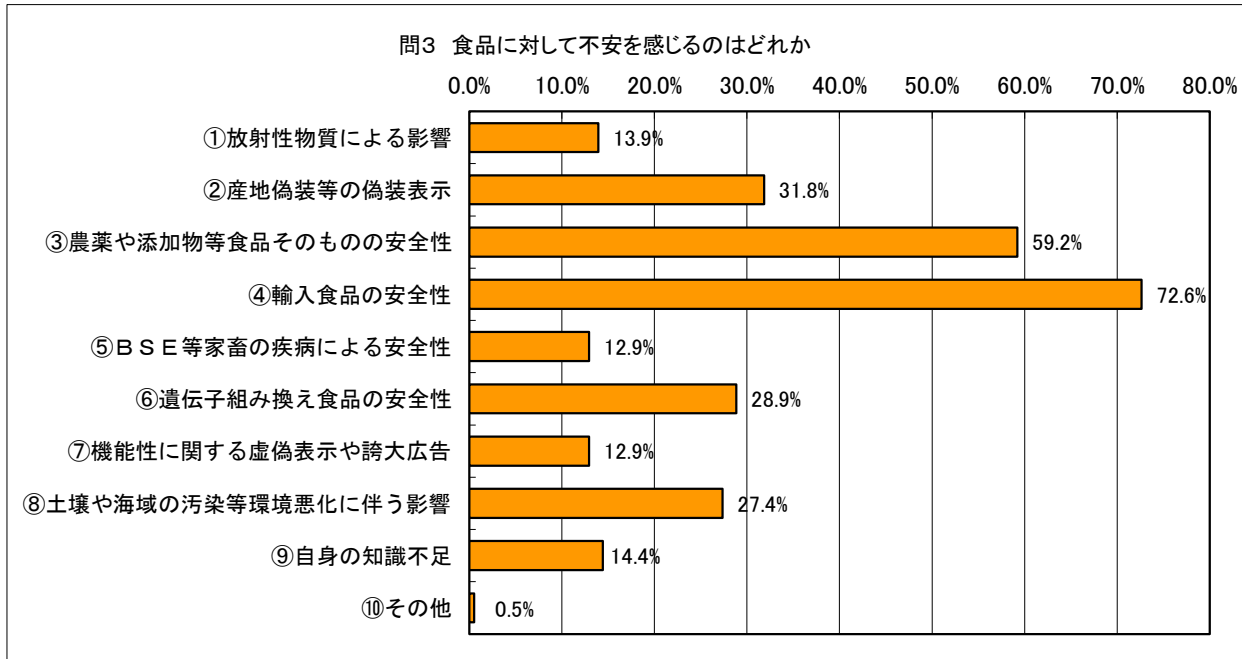
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	12
②ある程度不安を感じている	87
③あまり不安を感じていない	67
④ほとんど不安を感じていない	35
⑤わからない	0
計	201



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は49.3%であり、不安を感じない人の50.7%を下回っている。また、前回(平成31年2月調査。以下同じ)の48.6%から増加している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

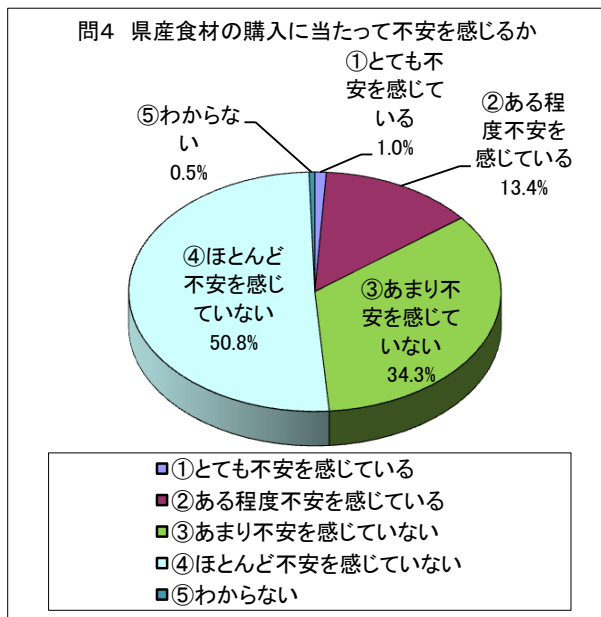


※「その他」の主なもの: 病気治療のための医師の食品指導

不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「④輸入食品の安全性(72.6%、前回64.5%)」が最も多く、次いで「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(59.2%、前回59.3%)」、「②産地偽装等の偽装表示(31.8%、前回33.2%)」の順に多かった。  
 なお、「①放射性物質による影響」は13.9%と、前回(18.2%)よりも減少している。

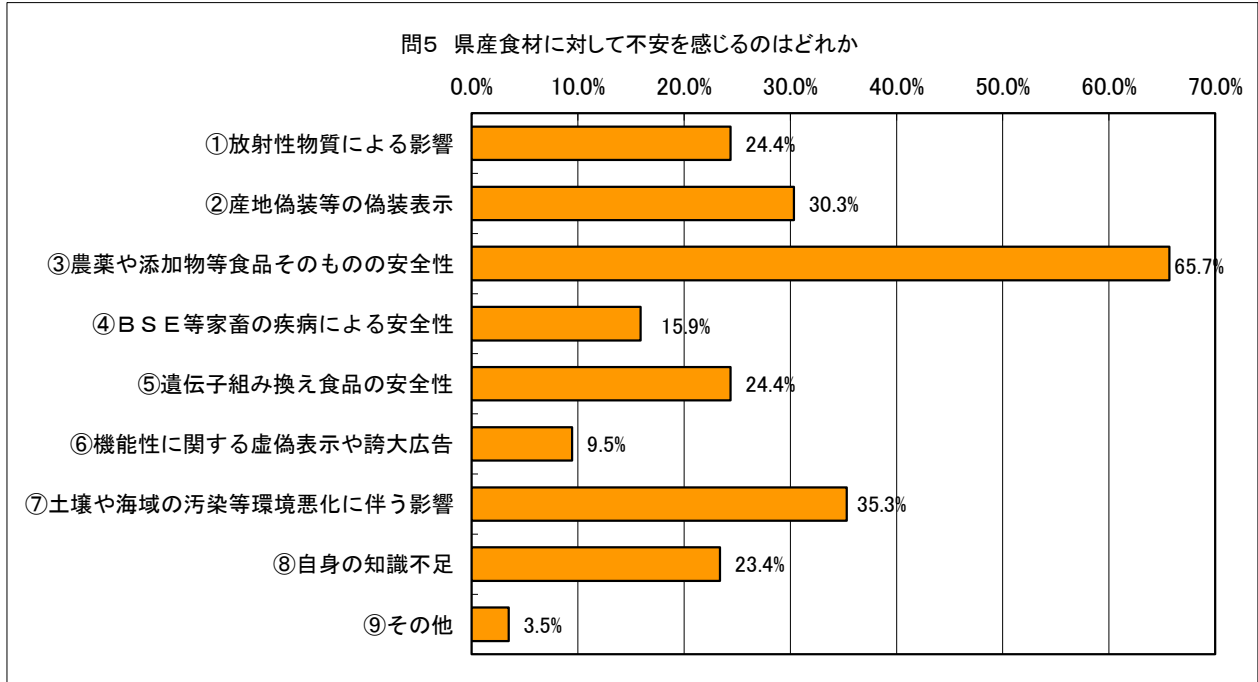
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	2
②ある程度不安を感じている	27
③あまり不安を感じていない	69
④ほとんど不安を感じていない	102
⑤わからない	1
計	201



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は14.4%(前回13.5%)となっており、不安を感じない人の85.1%(前回85.6%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

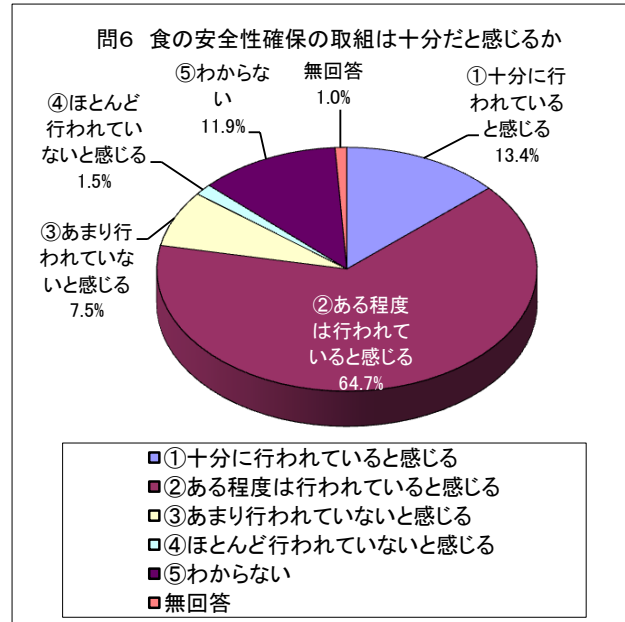


※「その他」の主なもの:生産場所の環境(特に衛生環境)、不安はあまりない 等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(65.7%、前回56.5%)」が最も多く、次いで「⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(35.3%、前回36.9%)」、「②産地偽装等の偽装表示(30.3%、前回36.0%)」の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

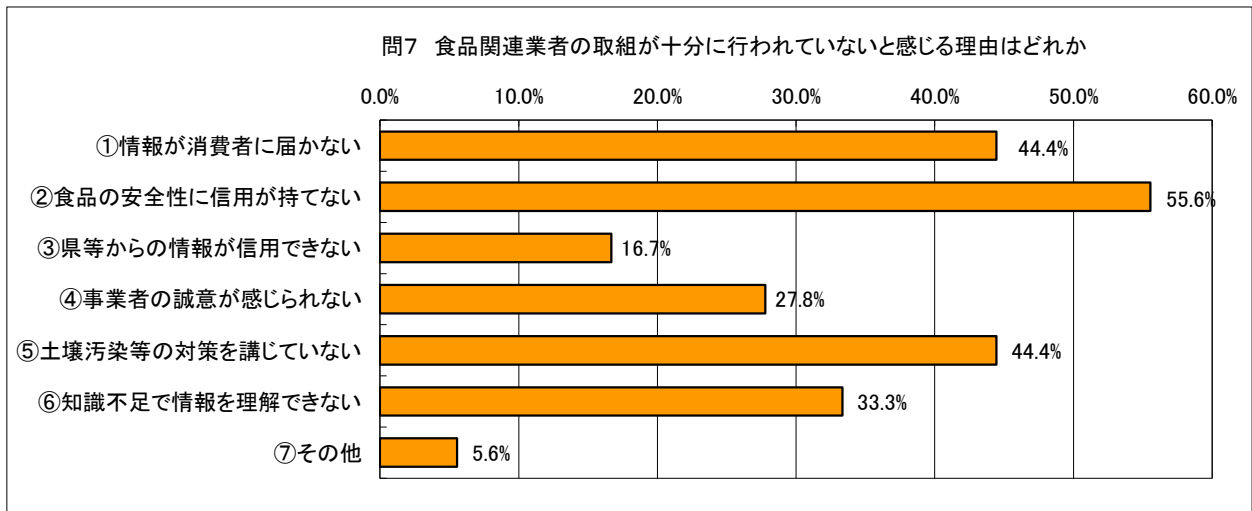
①十分に行われていると感じる	27
②ある程度は行われていると感じる	130
③あまり行われていないと感じる	15
④ほとんど行われていないと感じる	3
⑤わからない	24
無回答	2
計	201



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、78.1%(前回85.5%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

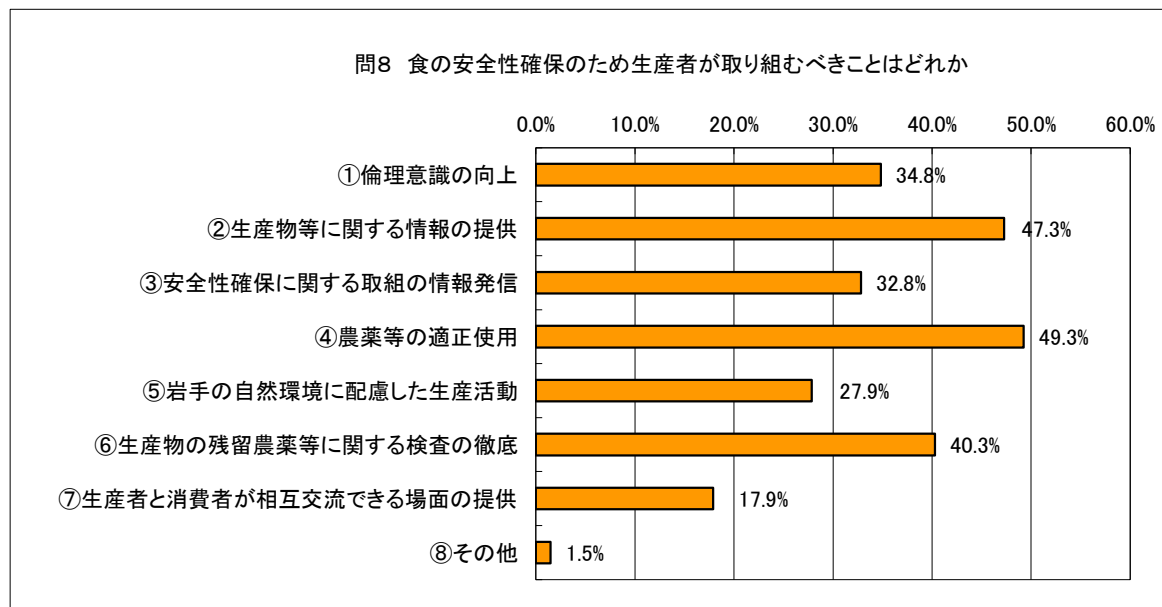
あなたが県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：県産食材の安全性のアピールが足りない 等

安全性確保の取組が十分ではない理由は、「②食品の安全性に信用が持てない(55.6%、前回68.8%)」が最も多く、次いで、「①情報が消費者に届かない(44.4%、前回87.5%)」及び「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(44.4%、前回43.8%)」、「⑥知識不足で情報を理解できない(33.3%、前回12.5%)」の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



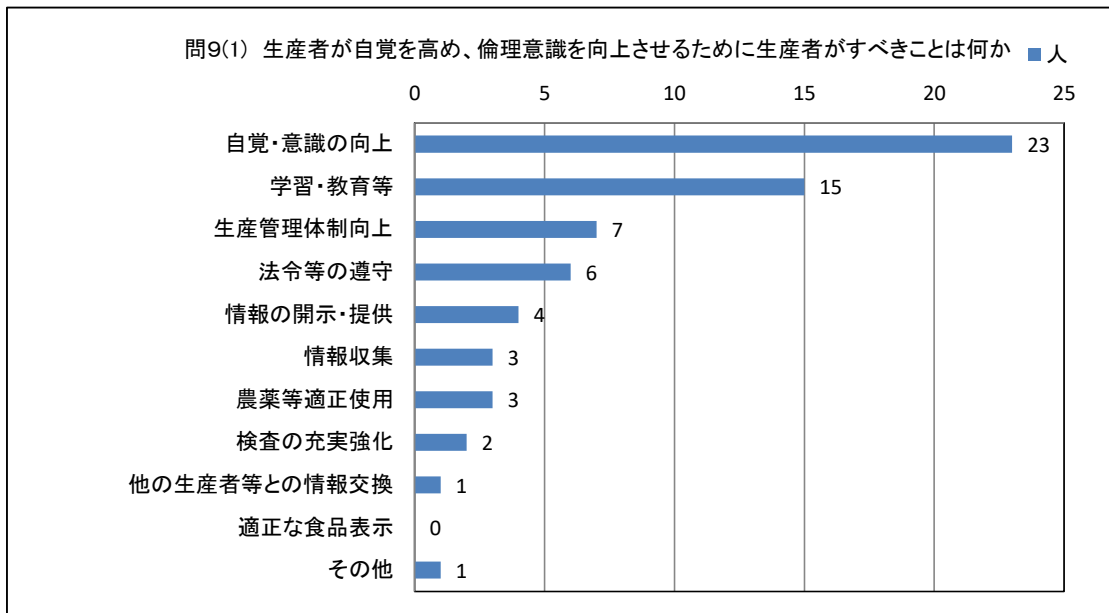
※「その他」の主なもの：食品信用を高めるための取組、情報の開示 等

県民が求める生産者の取組は、「④農薬等の適正使用(49.3%、前回44.9%)」が最も多く、次いで、「②生産物等に関する情報の提供(47.3%、前回47.2%)」、「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(40.3%、前回37.9%)」の順に多かった。

問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

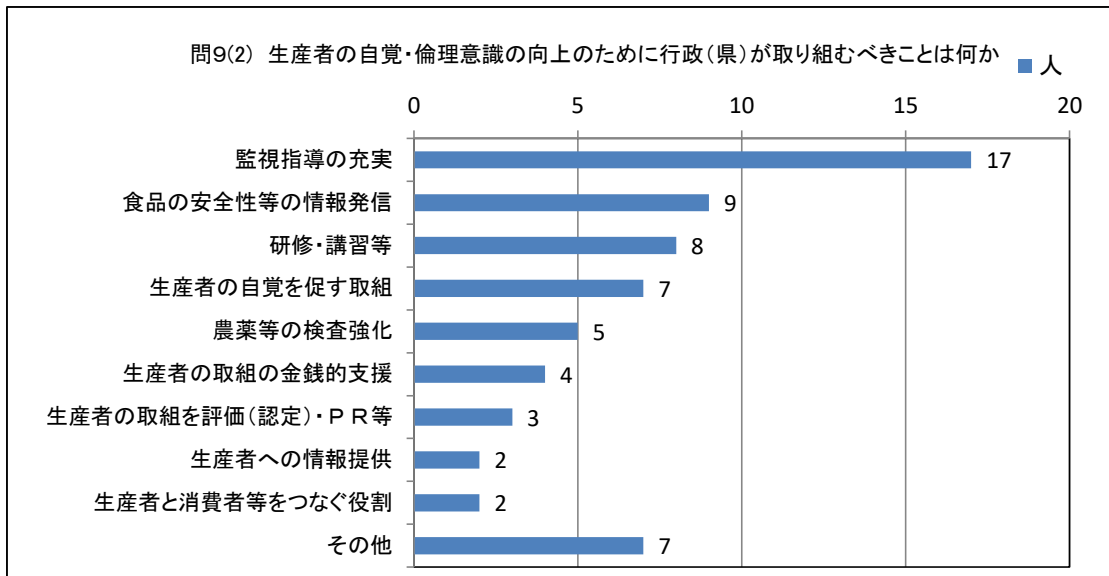
あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



※「その他」の主なもの: 生産者は誠実に作物を作っており、消費者側の自覚・意識のほうが大切である

(2) 行政(県)が取り組むべきこと

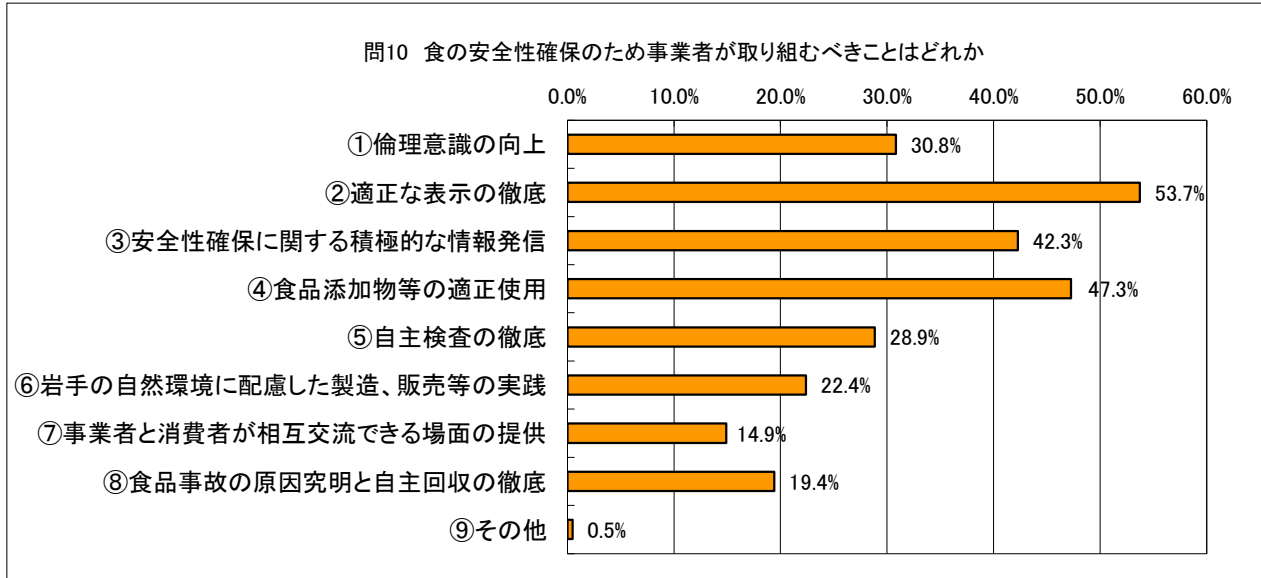


※「その他」の主なもの: 机上行政にならないこと、食材の安定した確保、他県から学び新しい取組をする、現状の認識、国外販売への取組実施、生産者と加工者・販売者とのやり取り間におけるギャップの改善 等

生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関することが最も多く(23人)、行政(県)が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(17人)が最も多かった。



問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



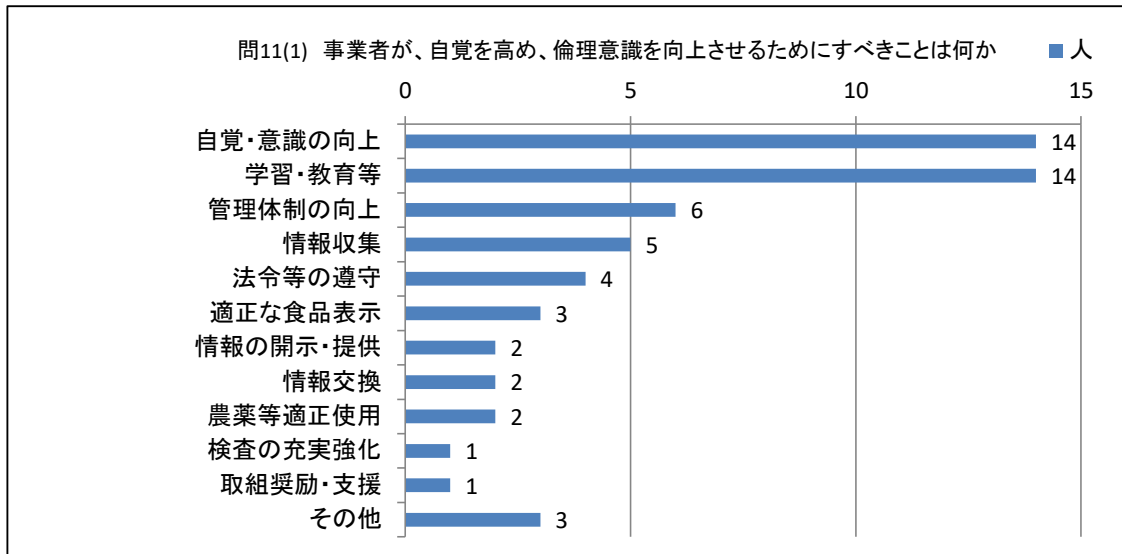
※「その他」の主なもの：放射性物質残留についての調査や結果の公表

県民が求める事業者の取組は、「②適正な表示の徹底(53.7%、前回51.4%)」が最も多く、次いで「④食品添加物等の適正使用(47.3%、前回43.9%)」、「③安全性確保に関する積極的な情報発信(42.3%、前回39.3%)」、「①倫理意識の向上(30.8%、前回35.0%)」の順に多かった。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きます。

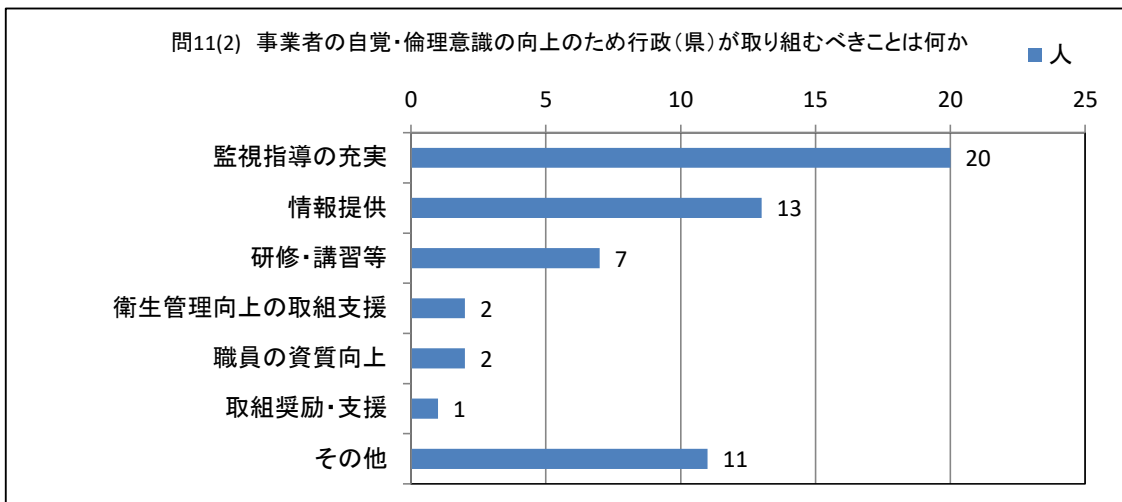
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いませんか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



※「その他」の主なもの:無理をしない、営利に走ることのないような経営状況の確保、安定した食材の提供

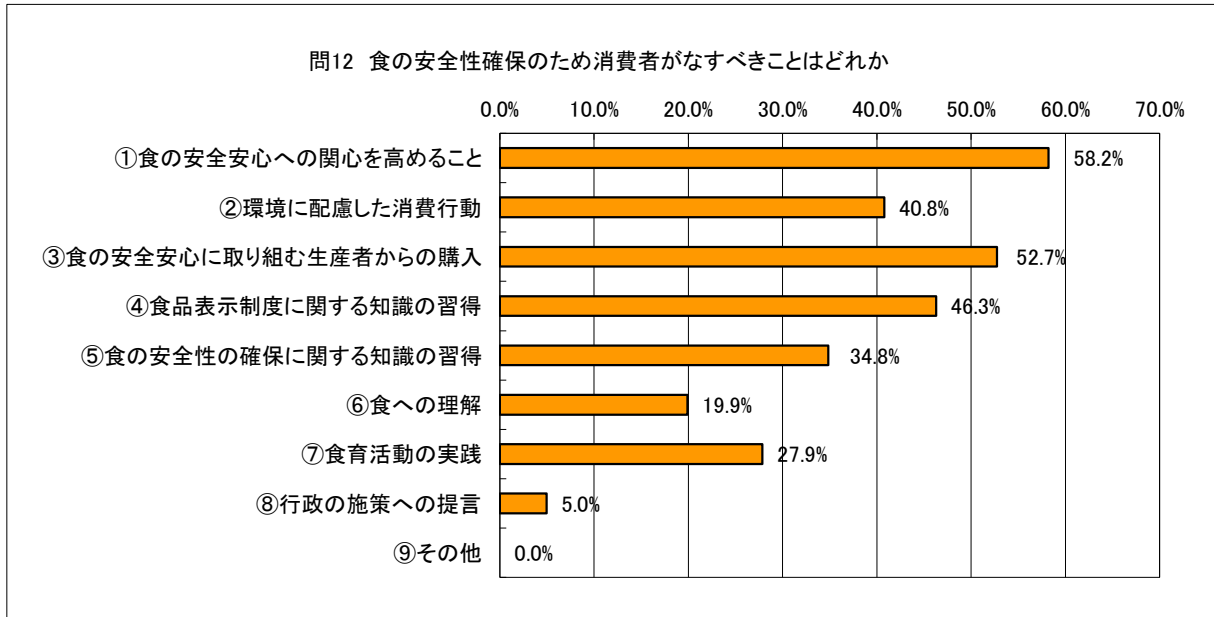
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの:安全な物が販売できる流通機構の徹底、国産・県産品の安全性を強く求める、事業者積極的に話を聞く、市民の健康促進を徹底する条件づくり、消費地拡大、生産者と消費者の連携強化、労働力確保、食品が適正であるかどうかの判断 等

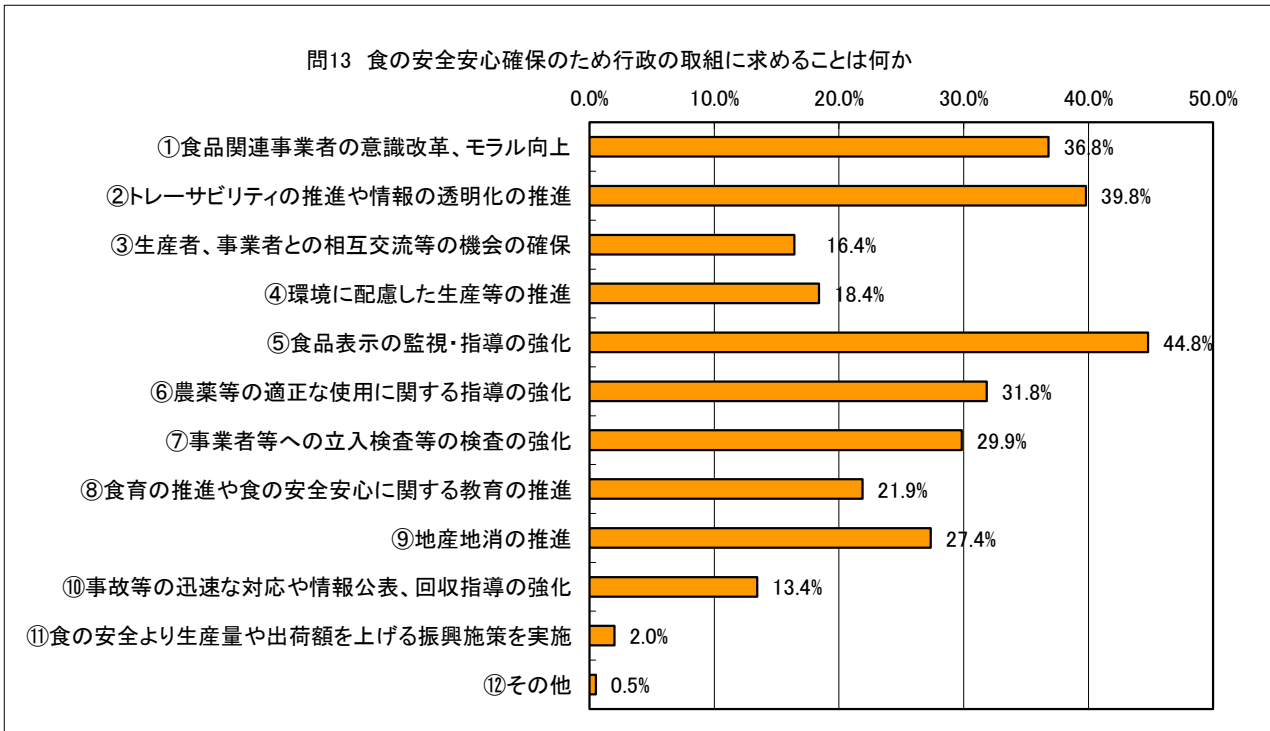
事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(14人)、学習・教育等に関すること(14人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(20人)が多かった。

問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



消費者がなすべき取組としては、6割弱(58.2%、前回64.0%)の人が「①食の安全安心への関心を高めること」を挙げており、次いで「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(52.7%、前回53.7%)」、「④食品表示制度に関する知識の習得(46.3%、前回47.7%)」の順に多かった。

問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 検査等費用の助成 等

行政の取組に求めることは、「⑤食品表示の監視・指導の強化(44.8%、前回43.5%)」が最も多く、次いで、「②トレーサビリティの推進や情報の透明化の推進(39.8%、前回28.5%)」、「①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(36.8%、前回44.9%)」の順に多かった。

問14 食の安全安心について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	食の安全・安心については非常に関心があるが、個々人で思っているだけでははかどらないので、もっと行政に頑張ってもらいたい。
2	米国産の牛肉は、安価であるため消費者にとって有利な反面、成長ホルモン剤が投与されているという現実があり、健康面での不安は残っている。国産の牛肉等の消費が伸びてほしいと思う。
3	生産者・加工日時・賞味期限等の表示に着目している。原則として、地産地消に留意している。
4	私も子どもアレルギーが年々出てきているので、国産・県産の品を使用している。この点について、広報で強く周知した方がよいと思う。
5	食の安全安心については、不安なく生活している。あらためて関心を持って生活しなくてはいけないと思った。
6	県産品・国産品については特に不安を感じることはないが、外国産のものについては不安がある。しかし、値段が安い等の理由から外国産の品を選ぶことが多い。
7	食品については、購入後はなるべく早く食べるように心がけている。食品表示の内容だけが頼りとなるので、信頼できる販売店や生産者をきちんと確認して購入することが安全安心につながるのだと思っている。
8	消費者・生産者がともにお互いの立場の知識を得ておく必要があると思う。
9	消費者には、県産品・国産品のメリットを知り使用してほしい。生産者の写真(作業場の様子、服装)がついている食品がよい。
10	なるべく産直を利用し、顔が見える形で買い物をしているが、それよりも先に環境問題を考えなければならないのではと思う。ごみの分別をきちんとし、空気や水をきれいにしなければ食の安全安心は実現できない。
11	食材を購入する際、価格で判断することが多いが、安価すぎると品質がよくないのでは、と疑ってしまいがちである。どのようにして見分ければよいか日々悩んでいる。
12	加工食品に数多く含まれている添加物が、人体に蓄積されることの影響が気になる。
13	店頭に並んでいるとつい安心安全な食品として見てしまうが、表示内容をよく確認して購入したい。
14	食の安全安心については、生産者の意識も高まり、行政も積極的に情報提供していると思う。消費者である私たちが、そうした情報から学び、適切に判断することが大切であると考えている。
15	食中毒は各家庭において発生しているのか。発生していないのであれば、それはなぜか。
16	体によいというイメージがある商品でも、食品表示の内容を見るといろいろな添加物が入っているものもあり、その安全性に不安を持っている。
17	外国産の食品が多く流通してきており、不安がある。
18	岩手県の食べ物は美味しいと思う。
19	スーパーや直売所で、袋詰めせずにそのまま置いてある野菜を手にとってそのまま戻したり、咳やくしゃみ等をしたことによって、野菜の表面にウイルスが付着している可能性があるのではないかと不安に感じている。
20	外国産のものはよく分からないので、国産、特に県産のものを買うようにしている。
21	農薬等が使われていない食品はほとんどないが、なるべく使われていないものを購入するよう心がけている。
22	農薬だけではなく、日ごろ流している排水もいずれは食品に影響してくると思う。家庭でも、自然に還るものを使用する等、意識して行動したい。
23	信用はしていても、生鮮品や肉等は購入前に再確認してしまう。魚の加工食品等も、消費期限の指定等にこだわって確認する。
24	私たちの地域でも高齢化が進み、田畑等が荒れ放題である。私たちは、グループで野菜等を植えたり草取りをしたりして、楽しみながら農薬を使わない野菜作りをしている。若いお母さんたちも、子どもと一緒に食べられる野菜作りをしてほしい。
25	スーパー等で輸入食品が多く出回っている。できるだけ国産品を買うようにしているが、輸入食品には安全性がはっきり分かるような表示をしてほしい。
26	情報が目に見えるような食品を求める。国産物が消費の中心でなくてはいけない。
27	たまたま、消費(賞味)期限切れの商品が店頭に並んでいるときがあるので、目配りをお願いしたい。

28	輸入製品よりは安全性があると思っているので、できるだけ県産品や日本製品を購入するようにしている。北海道沖で獲った魚を宮古港で水揚げすると、宮古産と表示できるということだが、どうなのか。
29	スーパー等の販売業者は消費期限等を厳密に管理していると思うが、消費者(特に高齢者)が、食品を購入した後適切に管理し消費しているかどうかについて不安に思う。
30	中国産の冷凍食品は買わないようにしている。遠野のジンギスカン肉の産地はどこなのか気になる。
31	食品ロスの問題が叫ばれて久しい。食品ロスを根本からなくすためにはどのような方法で取り組みればよいか、あらゆる分野において考えるべき時代がもう来ている。
32	一時期よりは食に関するネガティブな報道を見るのがなくなったと思う。消費者自身に食の安全を見極める力がついたと感じる。
33	岩手は産直がとて多い地域だが、個人が出荷した製品については、農薬等の安全性に不安がある。キャベツやリンゴなどは、洗っても薬っぽい変な味がすることがある。
34	「インスタ映え」を理由に、合成着色料が多く使われた食品がもてはやされる風潮が気になる。そういった食品は発がん性が高いことを教育の場でも周知してほしい。
35	「遺伝子組み換え」は、てっきり生産性の向上のために行われていると思っていたが、実はそうではなく、強い除草剤への耐久性を加えるための方法と知り驚いた。このようなことを、もっと消費者に伝えてほしい。
36	値段は張るが、子どもにはできるだけ減薬・無農薬の表示のあるものを購入してきた。健康の土台は食にあり、と思っている。
37	多少見た目が悪くても、国産・県産の食材を食べたいと思っている。きれいな形のものだけではなく、形が不揃いのものや、キズがついているものでも出荷できるような仕組み作りが必要ではないかと思う。
38	米に関して、栄養成分等の表示を設けること。
39	食品は健康と直結するものであり、体を損なう有害なものについては十分考慮して購入したい。そのためにも、食育は必要不可欠なものだと思う。
40	学校給食を通じての栄養指導は、子どもたちには非常に効果があると思う。地産地消の考えは、消費者にとって安全確保に関する信用性を持つものである。食育への関心が高まる大きなイベントがあるとよいのではないかと考える。
41	安定した価格での商品提供を希望する。
42	外国産の食品への心配は尽きない。日本の農薬使用の基準に適合しない食品をきちんと排除できるとよいのだが、と思う。
43	食の安全を考えて買い物をするように心がけているが、そのような考えで全ての食品を揃えると値段が高額になってしまうので、食材によっては妥協することもある。食の安全安心のためには、お金がかかると感じる。
44	食品のラベルに数えきれないほどの材料や添加物が記載されており、驚く。不安を感じ、信頼できない。
45	ブラジル産の肉に不安を感じる。
46	食品に使用されている添加物について、影響がどのくらいあるのか、よく分かっていないことに不安がある。
47	生活レベルの問題で、安価なものを購入しがちである。安かろう悪かろうはある意味仕方ないことだと思っている。
48	農薬による健康被害が気になる。
49	食べ残しや食料の廃棄が大量に発生しているというニュースが気になった。
50	自分の居住地により近いところで採れたものを買うようにしている。(胆沢→奥州→岩手→東北→日本→外国)
51	農家の高齢化、人手(後継者)不足のため、ある程度の農薬使用はやむを得ないと思っているが、できるだけ使用は控えてほしいというのが本音である。遺伝子組み換え食品の表示内容についても定義があいまいである。若い人たちに影響がないのか心配である。
52	食品に生産者の名前が表示されていると、安心して購入できる。
53	食品に関して、全般的に輸入品が多くなったように思う。輸入食品については、安全性にも不安を感じる。国の取組も大事だが、個人での自給率を上げるべきと思い、日々努めている。
54	食品については、残留農薬や食品添加物が気になるため、できるだけ産直等で購入するようにしている。

55	「さあにぎやかにいただく(東京都健康長寿医療センター研究所が開発した食品摂取の多様性スコアを構成する10の食品群の頭文字をとった合言葉)」を、1日の食品摂取の目安にしている。食事から摂る栄養が一番である。免疫を付け、ウイルスに感染しないような体づくりをしている。
56	安全性を考えれば国内産のほうがよいのだろうが、生活費の問題で値段が安い外国産のものを選んでしまう。食品の抜き取り検査等の強化をお願いしたい。
57	スーパー等で、輸入野菜や果物の陳列が以前より増えたように感じるが、残留農薬の表示のないものが多い心配である。グレープフルーツでは「防カビ剤使用」の表示をよく見かけるが、それ以外のものについてはほとんど表示を見かけず、大丈夫なのだろうかといつも気になっている。
58	国内の食料自給率が30%以下である現状についてもっと情報提供するとともに、安全基準を満たしている国産野菜等の購入を促進するために、生産農家に対して経済面での助成を行い、日本農業を保護すべきだと思う。
59	生きていくうえで最も大切なことは「食」だと思っているので、情報を得ながら安全安心な食品選び及び食事作りに努めている。賞味(消費)期限を確認するだけでなく、鼻や目、舌でのチェックも重要である。
60	食品の購入にあたっては、産地や値段が妥当なものかどうかを確認する。産地や生産者等の表示があれば安心である。
61	中国産食品はできるだけ買わない。
62	食品の生産国や産地を確認して購入している。
63	食品を購入してから消費に至るまでの品質管理の方法は、消費者によってそれぞれ異なると思う。食品の大分類ごとに注意することや守ることを整理したうえで、消費者が正しく理解できるよう取り組んでほしい。
64	賞味期限切れで値引きになっている食品をよく購入し、期限が過ぎているにもかかわらず食べてしまっており、そこは自分の責任であると思う。
65	生産者・販売者・消費者の相互信頼のもとで食の安心安全が成り立っているが、自分もある程度の知識や関心を持って生活していかなければならないと感じた。
66	最近話題になっている食品ロスに関して、宴席等での食べ残しや販売店における売れ残りの問題に胸を痛めることがある。
67	加工食品にしろそうでないにしろ、県産の食品をもっとアピールすべきである。また、安全面のアピールももっとされてもいいのではないかと思う。
68	遺伝子組み換え食品の安全性に不安がある。また、豚コレラや鳥インフルエンザ等の不安もある。
69	放射性物質や偽装表示、残留農薬、添加物等、問3の選択肢に挙げられている内容はすべて重要であると思う。
70	スーパーの一角に出店している臨時営業店舗の人が、消毒もせずに釣銭を触った手で食品を直接つかっており、とても不安であった。
71	食品の製造・販売業者には、ノロウイルスや新型コロナウイルス対策を徹底してほしいと思う。
72	消費者が関心を持つことが重要だと思う。
73	輸入食品が最近スーパーに増えているが、購入したくない。
74	「〇〇県産」とだけ記載がある食品よりも、「〇〇市産」まで記載してある食品は、より安心して購入することができる。
75	生産者側の安全性や開発に対する意識を高めつつ、生産者と消費者がともに食品産業を支えるような構造を構築してもらいたい。販売されている食品そのものばかりを考えると、生産者側と消費者側が互いに都合のよいことだけを考え、自らを守る意識だけが残り、社会が二分構造となって、安全な食品は単なる「消費財」といったものになる。食材は家庭生活において料理の「生産材料」となり、消費者も食の安全を提供する側になるわけである。お互いに共通した意識や知識が必要となるのだが、それを教える場所がない。
76	原材料の産地がどこかを確認してから購入するようにしている。
77	輸入品の肉は買わず、特に県産の肉を買うようにしているが、考えてみると、外食等した場合は使われている肉の産地が分からないままであるということに気付く。
78	アレルギー持ちの子どもは多いのだと感じる。
79	輸入食品について、かなり後になってから問題が指摘される事案が見られる。これらの事案について、海外・国内の研究者レベルでは事前に問題が認識されていることもあるようである。経済活動に対する影響を考慮しなければならない事情もあると思うが、食の安心・安全は私たちの健康に直接関わる問題であり、しかるべき機関から早い段階で情報を提供してほしい。

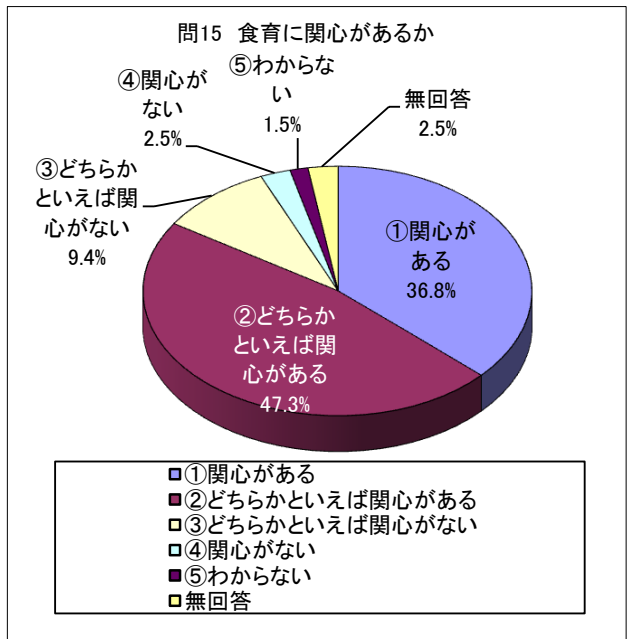
80	安全安心なものを扱っている生活クラブ生協を利用している。質のよい県産のものを信用して購入できればよいと思う。
81	岩手県で生産される農産物や畜産物、水産物は、全国的にとっても評価が高く、美味しい産物が多いことを県民として誇りに思う。身近に新鮮な食材が豊富にあり、食材本来の美味しさを味わう機会に恵まれているということについて、あらためて生産者と自治体の努力の賜物であると思う。食の安心安全を守ることは、簡単なようで難しいことだと思うので、とてもありがたい。美味しい岩手の産物を全国の方や世界中の方に知ってもらうためのPRを期待している。
82	中国産や韓国産の製品は、安全性に不明なところがあるので購入したくない。県産の食材は豊富で美味しく、価格も安いので、積極的に購入したい。
83	安全な食品については、スーパーでもっと分かりやすく紹介してほしい。
84	輸入食品に関しては漠然とした不安があるが、かと言って地産の食品が安全かと言えば不安もある。数日前には産直での「ニラ」と「スイセン」の間違い等の報道があったように、何をもって安全と考えていいのか答えが分からない。
85	盛岡では産直等がたくさんあり、新鮮な野菜を通年購入することができる。ただし、最近の産直ではスーパー並みの値段のものが多く購入をためらってしまうので、私は無人販売所を利用することが多い。適正価格の問題もあり仕方ないとは感じるが、安価で新鮮な食材を食べられるとよいと思う。子どもを産直に連れていき、野菜を選んでもらったりもしている。
86	さまざまな情報が錯綜して、食品添加物や栄養等についてもどれが正しい情報なのか分からないときがある。例えば、「発達障害には食品添加物や糖質の摂り過ぎが影響する」という内容が記載された書籍もあるが、どこまでを信じればいいのか分からない。自治体が正しい情報を提供してくれると助かる。
87	子どものころからの教育が重要である。
88	財布の中身と相談しながら、少々値段が高くても安全な食品(とりわけ地元の産品)を購入したいと考えている。事業者には関係法令や規則を守って製造してほしい。
89	岩手県内では、首都圏に比べると品質のよいものが適正な価格で販売されていると感じるが、特に大型スーパーでは県産食材の流通量が少ない気がする。
90	最近、食品着色料の使用が多く見受けられる。食材本来が持つ色を活かして食品製造が出来ないものだろうか、と思う。
91	岩手の食材は安全で美味しいと思っている。これからも、安全で美味しく、かつ安心して購入できるような「メイドイン岩手」の食材であってほしい。応援している。
92	食品を購入する際は、産地や生産者、食品添加物の内容を見るようにしている。
93	産直で野菜を購入するのだが、放射性物質について本当に安全なのかと気になるときがある。毎年、調査結果を公表してほしいと思う。
94	テレビ等でニュースになった事柄についての知識しか持っていないため、食の安全性に関する知識が不足していると感じている。
95	岩手県産の食品を購入することが多い。安心して食べられるものを選んで購入しているつもりだが、分かりやすい表示があるともっと購入しやすいと思う。安全な食材であることをもっとアピールしていけば、それが安心要素になる。
96	岩手県内には素晴らしい農産物等がたくさんあるが、上手にPRされているとは言えず、もったいないと思っている。県産の食品の安全性を、もっと県内外にPRすべきだと思う。
97	化学物質過敏症を持っている。できるだけ県産品を購入している。加工食品等の添加物については、保存という観点からは仕方ないと思うが、県産のものについてはできるだけ添加物を減らして製造してほしい。他県の友人たちも、岩手産、東北産であるということで安全性が担保されていると感じている。それゆえに、ひとたび何か問題が起こればその信頼感への裏切りは大きいと思う。人も、食も、すべてが幸福であり、岩手のよさがさらに広がってほしいと願っている。
98	食品に関しては、物を円滑に生産し消費させて利益を得るとともに、さらに付随して健康増進も実現できるという考えは安易すぎる。地産地消をうたっているにもかかわらず、県産品も置いていない大型店舗の出店を許している現状がある。生産者から売り場へのつながりの構築に関しても、個々の店舗による努力ばかりを強要する県の姿勢に腹立たしさを感じる。食育を推進したいのであれば、消費に関してだけでなく、生産から加工・販売に至る行程についても教えられるような施策を希望する。
99	食品について、農薬等が残留していないかどうか不安である。また、国産だと思って購入している食品が、実は海外からの輸入品ではないかと不安を感じる。
100	農薬使用や遺伝子組み換えについて、分からないことが不安である。
101	食中毒等にかからない食べ物や、調理に従事する人の清潔さを十分に発揮できる余裕が必要である。

102	産直に陳列されていた加工食品の表示に、サッカリンの文字を見つけて驚いた。今でも日本で使用されているのかと思い、自分でも勉強することが必要だと感じた。
103	食品の色や匂い、表示の明記。
104	偽造品すべてに不安を感じる。
105	中国産のものだとつい敬遠してしまう。子どもたちに安全な食べ物を提供するためには、なるべく地産地消の考えで消費するのが望ましいが、中国産のものに比べると値段が高くなってしまふ。家計は苦しいが、地産地消で取り組んでいこうと思う。
106	輸入食品が市場のほとんどを占めている今、これまで安心・安全神話があった日本の食品が、国の勝手に決めた法によって世界で最も危険な食材の国になりつつある。遺伝子組み換えはもちろんのことだが、農薬の使用についても規制が足りない。このままでは、皆が平和に生きられる国にはほど遠い。病気になり、病院で薬漬けになり、寝たきりになり最後は介護施設か自宅で放置状態になりかねない。そうならないためにも、一人一人が現実を知り学ばなければいけないと思う。そして政治を変えるしかない。



問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

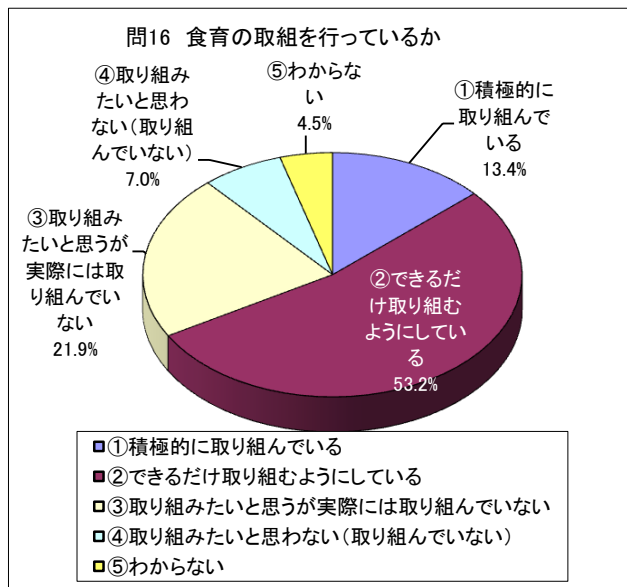
①関心がある	74
②どちらかといえば関心がある	95
③どちらかといえば関心がない	19
④関心がない	5
⑤わからない	3
無回答	5
計	201



食育に関心がある人は84.1% (前回88.8%)であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

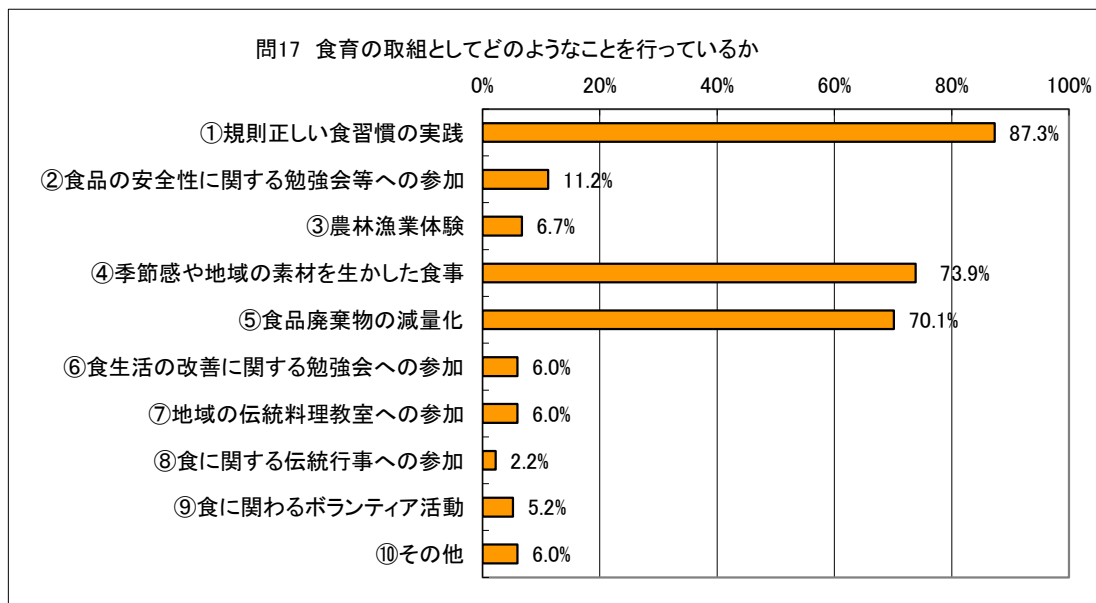
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	27
②できるだけ取り組むようにしている	107
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	44
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	14
⑤わからない	9
計	201



食育の取組を行っている人の割合は66.6% (前回62.1%)である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が約2割(21.9%、前回29.9%)であり、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

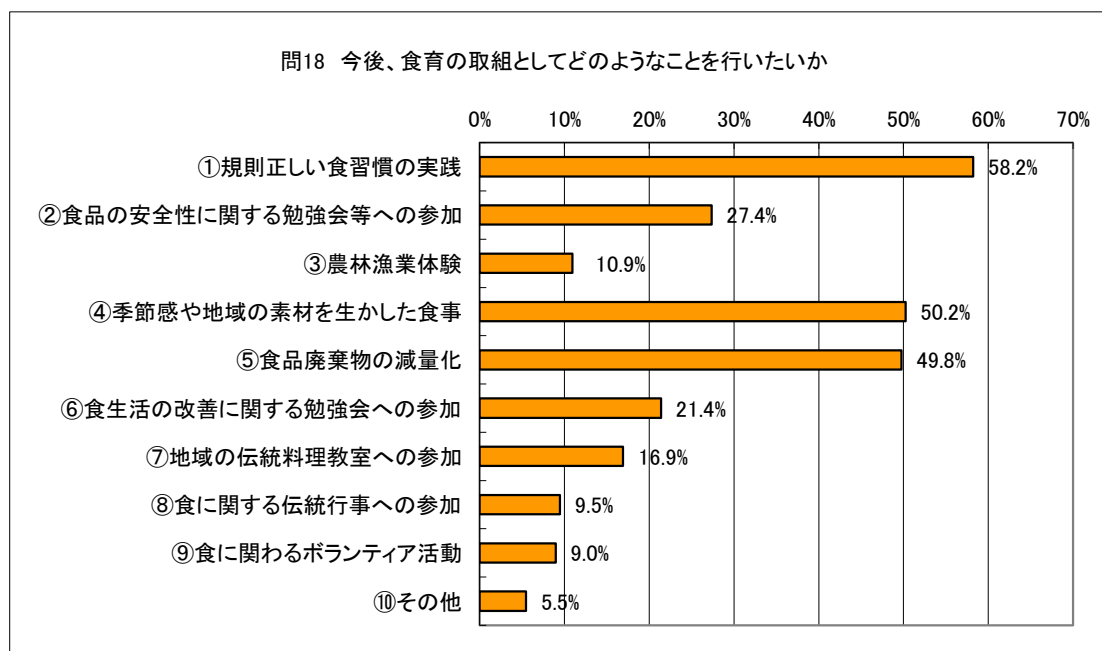
問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。  
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: インスタント食品や化学調味料はなるべく使わず年齢に合わせた食事を心がける、幼児期からの食育指導、生産者から直接購入する、自分で野菜を作る、地元の旬の食材や伝統食が体によいという考えを心がけている、食品や生産等の知識取得、学校や保育園から配布される給食だよりを読んで参考にする、食の祭典の実施、なるべく国産を食べて自給率向上に努める 等

食育の取組として行っていることは、「①規則正しい食習慣の実践(87.3%、前回89.5%)」が最も多く、次いで「④季節感や地域の素材を生かした食事(73.9%、前回81.2%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(70.1%、前回74.4%)」の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

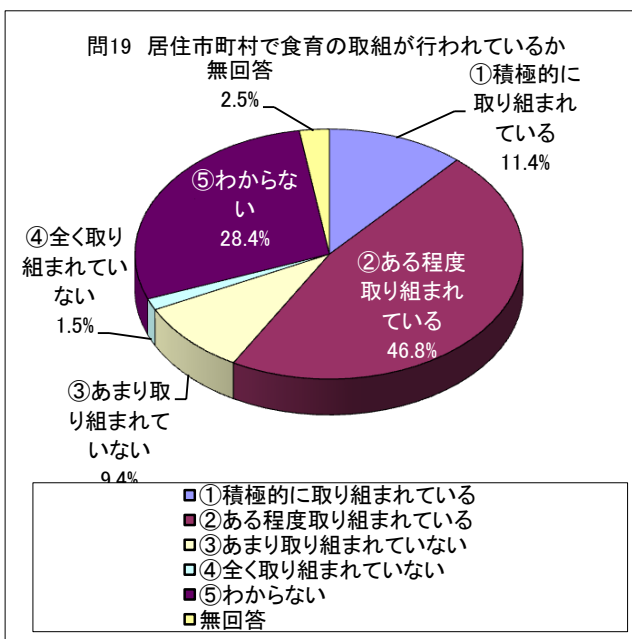


※ 「その他」の主なもの: 国産食材の使用、食べられない子供たちを助けたい、自分にできる範囲で関心を持って取り組む、材料の種類が少ないものを選ぶ、生産者に感謝しながら食べ物をいただく、感染症の面で勉強会等に行くのは怖い、民会たより等を通しての情報提供、食の祭典の継続、書籍等による知識取得 等

今後、食育の取組として行いたいことは、「①規則正しい食習慣の実践(58.2%、前回54.7%)」が最も多く、次いで、「④季節感や地域の素材を生かした食事(50.2%、前回52.8%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(49.8%、前回59.3%)」の順に多かった。

問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

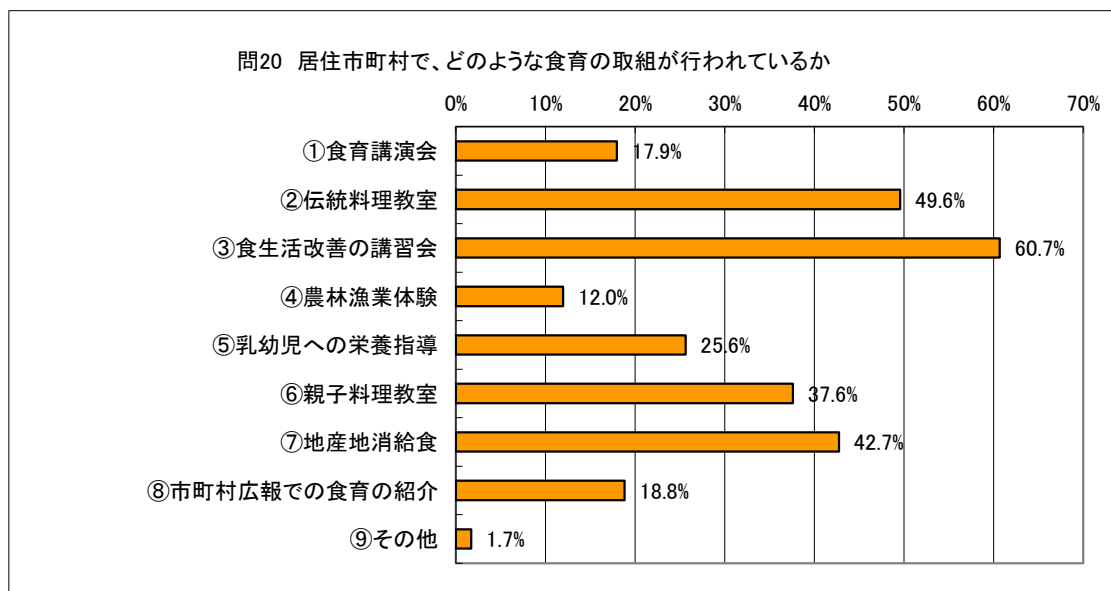
①積極的に取り組まれている	23
②ある程度取り組まれている	94
③あまり取り組まれていない	19
④全く取り組まれていない	3
⑤わからない	57
無回答	5
計	201



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は58.2%（前回59.0%）と前回より減少した。また、取組の有無が分からないという回答が28.4%（前回25.2%）と前回よりも増加している。

問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きします。

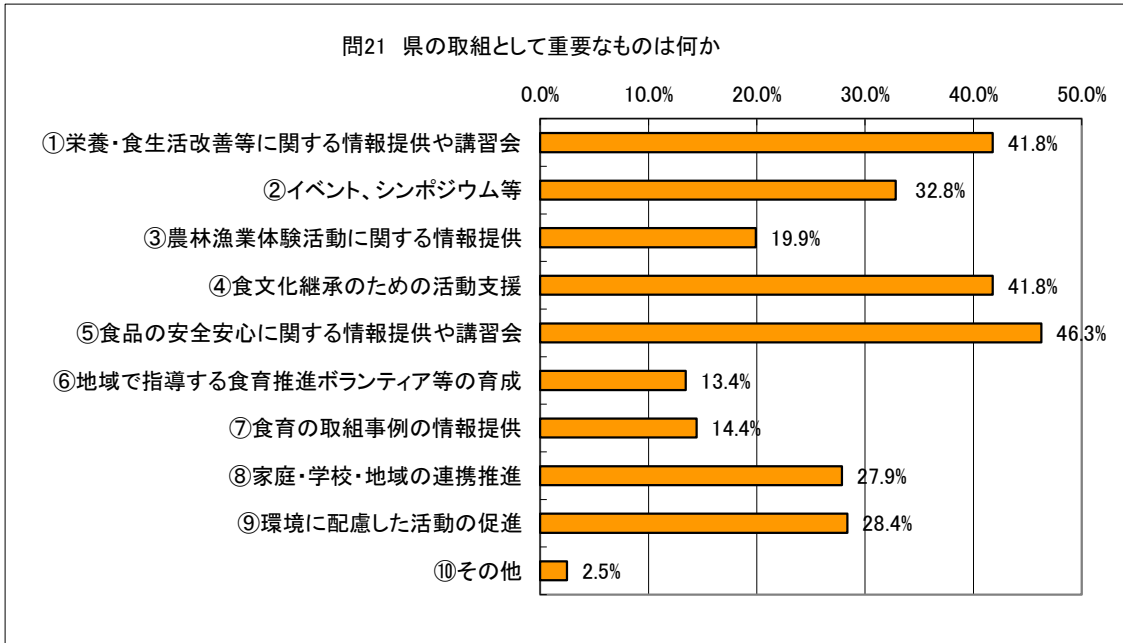
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの：子ども食堂、食育標語コンクールの開催や地場産品を使用したレシピコンクール、行われていることは知っているが内容は分からない 等

居住市町村の食育の取組内容は、「③食生活改善の講習会（60.7%、前回54.0%）」が最も多く、次いで「②伝統料理教室（49.6%、前回48.4%）」、「⑦地産地消給食（42.7%、前回46.8%）」の順に多かった。

問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの：未利用食材を活用した調理講習会、各地域の郷土料理を紹介しあう、給食や宴会等の食べ残し対策、消費者マナーの啓発、①～⑨までいずれも必要である、宗教・思想・アレルギー等により食事に制限がある人向けに出店・販売している店舗の情報発信、新型コロナウイルスが流行しているためイベントや催事は見送った方がよい 等

県の取組として重要なものは、「⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(46.3%、前回50.9%)」が最も多く、次いで「①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(41.8%、前回43.0%)」及び「④食文化継承のための活動支援(41.8%、前回41.1%)」、「②イベント、シンポジウム等(32.8%、前回35.5%)」の順に多かった。